

GREEN ニュース

行動する
環境アドバイザーの会報

第65号

環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹
平成 28 年 3 月発行

5 回の「どうして？」

お花見の人って、どうしてゴミをちゃんとできないんだろ？そう言った私を叱ってくれた人がある。「どうして？」を 5 回繰り返し返してみよう！

①どうして花見するの？友好を深めるため。②どうして？誰かとつながっている感じが欲しい。③どうして？生きてる手ごたえが欲しい。④どうして？不安で押しつぶされそうな日常。⑤どうして？自分のダメな所を何度も自覚する。

こうして初めて、私なりに、お花見の人の日常に満ちるズキンと鈍い痛みを感じました。

ゴミという記号の奥に潜む、本当の苦悩に少しでも寄り添おうとしているのか、との指摘だったのだと思います。桜の蕾がほんのり色づき始めました。もうすぐ春本番です。



「ため池百選 妙参寺沼の桜」

写真・文：高橋 健郎(太田市)

群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 28 年 3 月 20 日現在)新規登録 35 名

第 10 期(登録期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 28 年 3 月 20 日現在、男 175 名女 72 名、計 247 名です。

自然環境部会 59 名 温暖化・エネルギー部会 41 名

ごみ部会 37 名 広報委員会 18 名が登録し活動されています。

送付方法、メール 122 名 封書 125 名

目次(執筆者)

表紙画像・文 高橋健郎 氏(太田市)

P2 環境政策課

P3 須永代表から

P4 自然環境部会、ごみ部会から

P5 温暖化・エネ部会、前橋地区から

P6 沼田、太田地区から

P7 安中、渋川地区から

P8 産直倶楽部株式会社紹介、編集後記



環境にやさしい買い物スタイル 店頭啓発ご協力に御礼申し上げます！！

マイバッグ等の利用促進を中心とした店頭啓発活動について、
平成27年10月から平成28年3月にかけて、沼田市(1回)、安中市(3回)、太田市(2回)、高崎市(2回)で実施することができました。

多くの一般県民へ呼びかけを行う事ができましたので、事務局より御礼申し上げます。次年度はさらに多くの地区で実施したいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いします。

【「環境にやさしい買い物スタイル普及促進キャンペーン」各地区からの報告 その②】

・太田市新田地区

太田市新田地区では、とりせん城西の杜店での店頭啓発活動(12月15日)と、地元の綿打行政センターで2月13日、14日に開催された「綿打ふれあいまつり」の会場で実施しました。

綿打ふれあい祭りの会場ではアドバイザー5名が参加し、ごみの減量に熱心に取り組んでいる担当が自分の体験をまとめたパネルを作成し、来場者に説明しました。

また当日は太田市の清掃事業課とも連携し小型家電と食用廃油の回収も行いました。12年前町内5店舗で調査した時はマイバッグの持参率は約15%でしたが最近は大幅に向上しています。この活動を通してレジ袋が少しでも減る事を期待しています。



群馬県環境アドバイザー
太田市新田地区：西村 豊

・高崎地区

「環境にやさしい買い物スタイル普及促進キャンペーン」として、高崎地区会では7人が集まり、2月10日(水)午前10時15分からベルク高崎大八木店にてマイバッグキャンペーンを実施しました。

当日は快晴！来店された方々にぐんまちゃんのポケットティッシュを配布しながらレジ袋削減のご協力を呼びかけました。

アルミ缶やペットボトル等を回収するリサイクルステーションを利用する人が多く、おおよそ半数近くの方がマイバッグを持参していました。

この様子からレジ袋削減の普及活動が少しずつでも着実に浸透していると実感しました。

来店者の中には古着の作業衣ズボンでアイディ アマイバッグを作成・持参された方が居り、作り方を披露してくださるなど笑顔の交流場面もありました。この日はベルク高崎大八木店で「火曜・水曜日」の特売で来店者が多かったせいか、約1時間で500個の配布を終え短時間で効率よく活動できました。

3月にも活動を予定しております。これからも普及啓発は明るく無理なく楽しみながら、笑顔で活動していきたいと思いました。



群馬県環境アドバイザー
高崎地区：白田 敦子

雑感

代表 須永 徹

第10期も最初の1年が過ぎようとしています。

環境アドバイザーとしてご登録の皆様も、各地において様々な環境活動に携わりご活躍のことと思いますが、活動を引き継いでくれる後継者の確保や育成はどのようになさっているでしょう。

もしかすると、なかなか若いメンバーと触れ合い、活動への参加を勧めることができずにいませんか？

私は地元でNPOの運営を行っていますが、この数年は20代や30代の若いメンバーの加入が多く、7年前のスタート時に比べるとメンバーの平均年齢が大幅に若返りました。

そこで私なりに行ったことをご紹介しますと思います。そうすると何か特別なことを行っていると思われるかもしれませんが、

- ① いろいろなところで開かれている環境系のイベントには出来るだけ参加・見学する
- ② 出展者に声掛けをし、いろいろと話してみる
- ③ 我々の活動などを話し、紹介する
- ④ 興味を持ってくれた人を誘う

と、たったこれだけのことしかしていません。こういった中で若い人が入ると、その人が友人を連れてくるようになります。

若い人たちのボランティアや地域貢献活動に対する関心は、われわれが思うよりも高く、参加できる回数などは人それぞれですが、その人のペースで参加できるようにして緩やかな関係を築いていければ、必要な時に力は貸してくれるようになります。

こうして地域での活動に出てくれるようになったら、ぜひ環境アドバイザーへの登録も勧めてみたらいかがでしょうか。

いずれにしても自分たちだけの仲良しグループになってしまうと、他からは壁を感じてしまい参画を阻害することとなります。

組織が継続していくためにも、常に次世代の参画を促し育成していくようにしなければ、その組織体は先細りし、やがて消滅してしまうのではないかと思います。

まずは自分たちの活動を知ってもらうための行動をしてみませんか？



県庁32階からの眺望(谷川岳を望む)

自然環境部会だより

自然環境部会長 田中 和夫

自然環境部会では情報交換の場としての例会、実践活動としての高山村共有林の手入れ、随時実施する予定の観察会や勉強会などの行動計画を考えています。一方個人レベルでの知識の向上にも期待しています。

今回、私も加入している「NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会」の主催で開かれる「大人のための自然教室」を紹介します。

群馬エリアで、自然保護につながる山林の手入れ、子供（大人も）を対象に自然観察教育などを行っています。

新メンバー養成のため、及び自然環境・保護に関心はあるが勉強の機会がない、という方に広く呼びかけて講習会を実施しています。有料（5,000 円）ですが、一流の講師陣で幅広い分野の勉強ができます。ぜひ皆様のご参加をお薦めします。もちろん自然環境部会以外の方にもお薦めです。

申し込みは 4 月 15 日まで、<http://inpuri.web.fc2.com/> または「ぐんま緑のインタープリター」で検索して下さい。

◎例会は基本的に奇数月の第二土曜日に実施しています。

大人のための自然教室(平成 28 年度)

No	月日(日曜日)	講座名	会場
01	5 月 8 日	開講式、自然解説とはネイチャーゲーム	憩いの森・森林学習センター
02	6 月 12 日	群馬の巨樹古木ツアー	バスツアー県内 4～5 カ所
03	7 月 10 日	植物についての基礎知識、夏の植物観察	林業試験場
04	8 月 21 日	哺乳類について、水生昆虫について	赤城間伐学習館
05	9 月 11 日	昆虫について、両生類について	ぐんま昆虫の森
06	10 月 9 日	秋の植物観察、土の中の生き物について	憩いの森・森林学習センター
07	12 月 11 日	野鳥観察、修了式	藤岡庚申山

ごみ部会だより

ごみ部会長 山田一朗

早いもので、第 10 期の最初の 1 年が過ぎようとしています。やりたいことはいっぱいあったのに、その半分もできずに終わってしまったように感じています。思うにごみの減量活動は、絶え間なく続いてゆく活動であり、個人にとっては重すぎる課題であるかも知れません。しかし、地球市民の一人として避けて通れぬ課題であるとするれば、前向きに楽天的に取り組んでみるのも一つの方法であるかも知れないと思います。

大好きな群馬を少しでもきれいにしたいという思いを形にする場として、ごみ部会を運営してゆきます。ごみの減量のためには、できるだけ多くの人や団体と手を組んで行動してゆきたいと思います。そして次年度も「みんなのごみ減量フォーラム」の準備や、環境にやさしい買い物スタイル＝レジ袋削減の店頭啓発などに参加したいと思っています。



例えば、ごみ収集の有料化、布やプラスチック、ガラスや陶器などリサイクル品目の種類、ごみステーション見守りカメラなど話し合いのテーマには事欠かない状態です。日ごろ、ごみについて何とかならないかと思われている方は多いと思いますが、部会登録の如何にかかわらず、是非ごみ部会でお話いただければと思います。

平成 28 年度のごみ部会をこんな風にイメージしています。

温暖化・エネルギー部会だより

温暖化・エネルギー部会長 加藤 幸輝

皆様今日は、この冬は世界多くの地方で地球温暖化(気候変動)の影響が見られました。

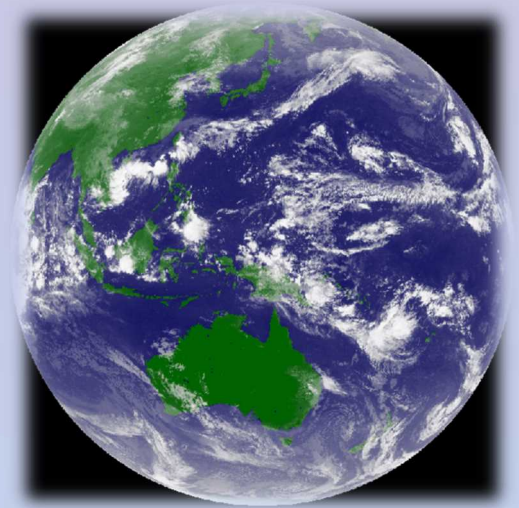
幸い群馬地域では大量の降雪は免れたように思います。

さて、パリ会議(COP21)は終了し、パリ協定は合意されました。詳細は各自情報をお持ちと思いますが、所感を述べてみたいと思います。日本は参加先進国の中で最も少ない、CO2削減目標 30%となっております。これから様々な識者からコメントがジャーナリズムに出てくるとと思いますが、最近の日本のCO2削減計画から見ても少し疑問になるように見られます。この2月の政府プレス発表では新技術による石炭火力発電推進、エジプトへのインフラ輸出として石炭火力発電など世界の潮流化石燃料による発電、原発の削減などのエネルギーシフトから見るととても考えられない状況です。

最新の政府政策、二酸化炭素 40%削減政策等により当国民の思考を逆撫でするような政策が見られます。

一方、日本では地熱発電の世界最大のポテンシャルはあるにも拘らず、ジャーナリズムには殆ど登場しません。

また、元旦の各新聞別売り特集号には環境 エネルギーなどの記事が殆ど登場しませんでした。日本は喉元過ぎれば後は良いとの考え方が特に見られる為、世界の笑い種になり、日本への信頼は損なえているように思われます。詳細につき別途研究していきたいと思いますが、それらは国民が次の世代により良い環境エネルギー等引き渡すことが必要と思われれます。環境政策ウォッチ、また政策提言をしてゆくことが必要と思われれます。



地区からの活動報告

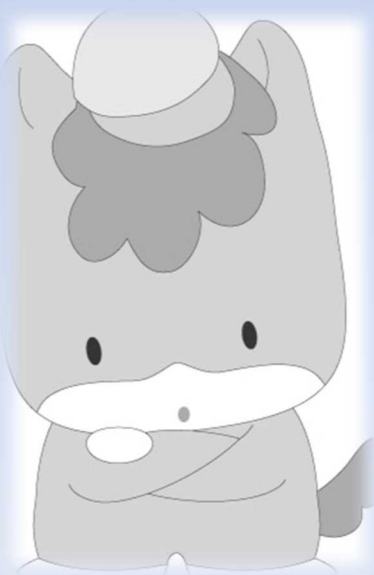
子どもたちに環境学習の場を！！

前橋地区 城田 博巳

この日本の、世界の 100 年後、50 年後少なくとも 30 年後を考えたことがありますか。特に地球環境問題は「温暖化」一つをとってみても、まさに百年の計です。そんな先は関係ないと私たち大人は思ってしまっていますが、30 年～50 年先は、今のこどもたちが大人として生きていく時代です。こどもたちに委ねていかざるを得ない時代です。

「温暖化」は勿論、「ゴミ」「大気汚染」「人口問題」とあまり良いテーマは見当たりませんが、子どもたちの豊かな想像力・創造力を育てて問題解決に当たれるよう、私たち大人が、「子どもたちの環境学習」の場を用意する必要がありますでしょう。

環境アドバイザー、一人が一つ、身の周りで「子どもエコクラブ」つくってみませんか。



地区からの活動報告

驚いたネ！「食品の破棄」

ああ、もったいない！

沼田地区 角田 和男

毎年、開催している小学校同級会の宴会で、恩師の魚の食べ方、背骨を残すだけの上手さには驚嘆した。海無し県に育ち、魚の苦手な自分には、とても真似はできない。

食べられるのに捨てられる食品の量が、日本の場合、年間 500 万トン～800 万トン。この量は主食である米の生産量とほぼ同じである、と聞いて宴会の料理を残さずに食べきる恩師を思い出した次第である。

食品廃棄量の多さには驚いた。ああ、もったいない！

恩師に見習って、食卓に出された料理は、残さずに食べることにしよう。

地区からの活動報告

太田地区 高橋 健郎

「環境アドバイザー」という言葉では、ポロリポロリとこぼれ落ちてしまうものがある気がします。ゴミ削減や自然保護、温暖化防止。大切な課題に最前線で向かい合う皆さまには、それ以前に、もっとももっとも重要な想いや問い、原体験が、秘められているのではないのでしょうか。一体、豊かとは何か。進歩とは。深く静かな充実とは。群馬の可能性とは。今だからこそもう一度、原点に光を。詩を。愛を。

地区からの活動報告

太田市綿打ふれあいまつりに参加

太田市 西村 豊

太田市綿打地区生涯学習協議会では毎年登録団体や小学校の活動発表を行う「綿打ふれあい祭り」を綿打行政センターで開催しています。会員 6 名がアドバイザーに登録している新田環境みらいの会も会議室で活動内容を発表しました。

今年は新田地域に生息する貴重な植物やゴミの減量について紹介、県の環境にやさしい買い物スタイル普及促進キャンペーン運動や太田市と協力し小型家電と廃油回収等を行いました。

主な展示内容

- ① 綿打地区の自然環境の紹介
- ② お絵かきマイバッグ創り（中学生までが対象）
- ③ 環境にやさしい買い物スタイル普及促進キャンペーン運動
- ④ 資源ごみの処理ルートを紹介
- ⑤ 小型家電と食用廃油の回収（太田市と協力）

2 日間とも天候に恵まれ全体で約 1,200 人の来場者があり会議室でも約 500 人の方に説明しました。



お絵かきマイバッグ創り

地区からの活動報告

安中地区 湯澤 正明

2年前から「レジ袋削減・マイバッグ普及」の活動に参加しております。私達の豊かな生活は、自然の大きな恵みの中で育まれておりますが、今、「地球規模での温暖化の進行」、「異常気象の頻発」、「森林資源の減少や砂漠化の拡大」等々の問題を抱えています。地球の環境危機への対応と改善に向けた取り組みに、地域の皆様と一緒に少しでもお役に立ちたく、活動に参加して参ります。どうぞご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



地区からの活動報告

環境って? あれから 20 年

渋川地区 高田 由美子

愛犬の散歩中、草むらからの空き缶・ごみ・犬の糞等が目立つ道端。空き地の草むしりをしてみたり、色々と環境が気になり、市の窓口へ相談に行きました、そこで紹介され個人で入会したのは平成7年頃でした。

現在では、環境美化活動も定着し、不法投棄も少なくなりましたね。

アドバイザーへの登録後、持ち前の好奇心から情報を頂くなかで、ごみ処理施設・リサイクル工場見学・マイバッグキャンペーンの啓発活動や様々な研修会に参加させて頂きました。ごみの出し方から産業廃棄物・温室効果ガス・動植物や自然環境の変化（破壊?）は、人間が生み出した副産物なのでしょうか。

また、高齢者についても、健康寿命が見直され、対策も進められているが、医療費削減考える時ドクターショッピングで自然治癒力との体内バランスが不安定のまま日々を送っている人も多いことでしょう。情報機器の進化に伴い、24時間情報の中では心のゆとりをつくるのも難しくなっている。

一方、機械化やロボット化が進む方向にあるが、若者の安定した家庭生活の基盤も大切だと思います。女性の社会進出も必要とされる現代、少子化に対し前向きに努力をとれば、育児に介護、職場に家庭と両立できるスーパーレディが求められる。

個人情報・守秘義務・核家族と言われている中で、介護問題もこれからの重要課題の一つですね、町内の役員も地域活性化にどう対応していったら良いのでしょうか。

海外の人も日本の水に感心を持っている。

水・空気・食べ物と一番大切な事・・・・・・・・それは、

自然との共存、ため息をつく時間も無いほどの日々の忙しさの中で・・・・・・・・

陸・海・空の諸問題、変化しつつ繰り返される。

それぞれの地域で実践されている方々のお力を頂きながら、共に学び、あせらずたゆまず。点が線に、線が面に、そしてその輪が少しずつ大きく強くなることを願いながら、今、自分が出来ることで協力していきたい・・・そんなことを想いつつ生活している環境アドバイザーの一人です。

“人はみな環境アドバイザー”

皆さんの持ち味をもっともっと地域社会で生かしていきたいと思いませんか・・・

後継者の育つ、小さな農業モデルを作りたい！

農業法人 産直倶楽部株式会社（太田市）

埼玉と栃木に隣接する群馬県太田市に野菜の生産者団体「産直倶楽部」という農業法人があります。この団体は家庭菜園規模の小さな農家から大規模農家まで様々な形態の農業者が在籍し、市内外のスーパーで農家が直接地元の方へ野菜を販売できるよう、企業との取引に必要な保険や決算の代行を行っております。

設立したのは太田市にお住いの代表 蓮沼正（はすぬま まさし）さんです。

2014年の大雪災害では太田市内約6割のハウスが倒壊し、これを受け蓮沼代表は一年間の手数料（3%）を無料にしたり、新たな販売方法に取り組んだりと様々な農家の為の政策を行い、5年前に6名で設立した小さな農業法人ですが、去年は180名の農業者団体となりました。

国では農業者の減少に伴い農地の大規模集約化を推進しておりますが、産直倶楽部では地域と密接にかかわっていた小さな農家が次世代に引き継げる環境を作るにはどのようにすればよいかを、生産者皆で考えながら取り組んでおります。



農業の仕組みと環境アドバイザーの役割は一見違った分野に捉える方もいらっしゃると思いますが、田んぼや水路に水が入るタイミングで活性を増すトンボ、ドジョウ、ザリガニや、休耕地には寄り付かない蜂や蝶の生息環境は、農耕地から生みだされている場合が非常に多く、農家の活動は生物の生息環境と密接に関係しているかと思っています。

また、畑は近隣住民同士のコミュニティースペースともなっており、命産みだす美しい環境の中で共に働く方々と喜びも悲しみも分け合い暮らす中で、生き物を思いやる人間らしい心を育んできたのではないのでしょうか。



私は農業を始める前まで自分達人間は自然に対し悪さをするばかりと思っていましたが、人間本来としての役割は、自然と直接触れ合う農業を通し、様々な生き物が活動出来る環境を作りだし、それらを維持し守る為に存在しているのではないかと考えるようになりました。

これからも当たり前のようにある小さな畑を沢山の地域に残すことが出来る様、産直倶楽部と共に励んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

環境アドバイザー、産直倶楽部 中島沙織

編集後記

会員の皆様、グリーンニュース 65号が出来上がり、みなさんの手元に届くと思いますが、この会報誌は環境に関心を持たれている、アドバイザーの会員同志を束ねる声の結晶です。

よし、次は俺が、私かと自分の思いを広報委員会にお寄せください。

また、広報委員会は自由参加です。思い立ったら、会議にも参加ください。

GN65号 担当 原田邦昭